Program 3月のプログラム

講義

1(木) 成長セミナー　永井 基呼師

キリスト教の基本的な教理などを、専用の絵を用いて分かりやすく教える事が出来るようになるための学びです。

講義

7(水),22(木),23(金) 12小預言書　永井 学院長

預言書のなかでも、比較的短い「小預言書」と呼ばれる、十二の預言書について学びます。

講義

20(火) 特別講義　ピーター・チャオ師

2015年2月と2016年4月に特別講義をしてくださったピーター師による、約２年振りの特別講義です。

8(木),9(金),13(火)～15(木) 伝道実践

近隣の町でのトラクト等の配布や訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、伝道ライブなども行います。

11(日) 3.11 東日本大震災 追悼記念礼拝

震災から7年。今年も追悼記念礼拝が行われます。亡くなられた方を偲び、被災した方々へ慰めと希望、そして神様からの祝福を届けるため、宮城県内の諸教会から集い、礼拝の時が持たれます。

Kakudai Mission Institute 30th Anniversary

拡大宣教学院30周年記念聖会

2018 4/17(火) 14:00～ 第一聖会 ,17(火) 19:00～ 第二聖会 ,18(水) 10:00～ 第三聖会

主講師 キム・ジョンイル師【韓国 スクール・オブ・オーガニック・プランターズ校長】

申込要項　お申込みの際は、下記メールか FAX に参加者全員の氏名と所属教会名をご連絡ください。
gospeltown@infoseek.jp　022-345-2992

ぜひ、ご参加ください。お祈りください。

17日 11:00 から入学式、卒業式が行われます。

宿泊のご案内　ゴスペルタウンでの宿泊は、人数に限りがあるため、できるだけ最寄りの宿泊施設に、ご宿泊ください。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

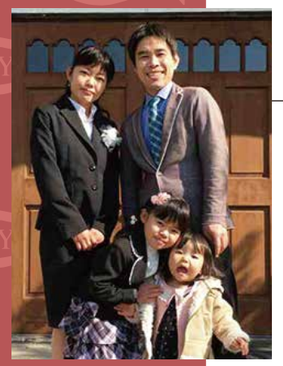
最寄りの宿泊施設のご案内
- ■ホテルルートイン仙台大和インター ☎ 022-344-5711
- ■大和パークホテル ☎ 022-345-6680
- ■ビジネスホテル新ばし ☎ 022-345-7887

ウェブで予約できます。

Magnify 拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ ■発行人：永井 信義 ■編集：東海林 真
〒981-3604 宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン 022-345-2991 022-345-2992
gospeltown@infoseek.jp 郵便振替：02240-7-34622 facebook「gospeltown」

雨上がりに虹のかかる
建設中のゴスペルタウン

拡大宣教学院 GOSPEL TOWN
Kakudai Mission Institute No.355
Magnify
拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ



私たちの祈りは覚えられている（創世記 19：23～29）

日本キリスト宣教団 烏山福音教会 伝道師　中山 孝弘 師

こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた。
（創世記 19：29）

去年の4月に拡大宣教学院を卒業し、栃木県烏山市にある、烏山福音教会に赴任して、もう少しで一年が経とうとしています。最初に来た時に何をしていったらいいですか、と祈り求め思い巡らしていますと、「祈りなさい」と心に迫るものがありました。よし !! と思い、今年一年「祈り」をテーマに、メッセージや学びをしていこうと決め、チャレンジしてきました。

聖書の中には実に沢山の祈りが出てきて、様々な事に気づかされます。特に、その中で思い巡らすことが多かった聖書箇所を今回選びました。この箇所には、有名なソドムとゴモラが出てきます。この街には悪がはびこり、何が正しいのか分からないという状況の中にあり、その悪が満ちたとき、神様の裁き、この街の徹底的な滅ぼしが成されます。

ロトは、街の人たちの罪に染まらず、健全さを持っていて、信頼もされていたのだと思うのです。なぜなら、彼は、町の人々から一目置かれ、町を指導するものとなっていたからです。しかし、一見すると良き信仰者のように見える彼ですが、創世記19章8節からの彼の言葉や行動は、とても信仰者のものとは思えないものです。

自分の家に御使いを招いたことによって、彼の家はソドムの人々に囲まれました。その時に自分の二人の娘を差し出そうとしたり（8節）、御使いが、この街がまもなく滅ぼされるから逃げなさいというときに、ロトは身内に伝えるが、冗談のように思われてしまいます（14節）。つまり、普段から神様の話や、証しをしてこなかった、そして、ロト自身も御使いが言うことを、いまいち現実味がないと信じられないでいる（16節）、そんな、ロトの罪に対する無力な姿が見えるように思えるのです。

罪に対して何もできない。証しも、伝道もしない。御言葉も信頼できない。この一つ一つのロトの姿を見る時に、何とも中途半端な信仰者の姿が浮き彫りになります。しかし、それは同時に、私自身の姿が現されていると思わされるのです。罪の前では、自分で解決する力もないのに、自分でなんとかしようとしてしまったり、証や伝道に力がなく、信仰の道を行こうと決断しても、神様の御言葉を信頼しきれない、信仰が揺らぐ、決断が揺らぐ、そんな私自身の姿が……。しかし、神様はそんな私に恵みと憐れみの御手で救ってくださる。そして、最も注目したいのは19章29節です。「**神はアブラハムを覚えておられた。**」それで、ロトは破壊から救われた。と出てきます。

18章でアブラハムは、ソドムとゴモラのため、ロトのためにとりなしの祈りをしています。このとりなしの祈りを神様は常に心に止められた。だから、ロトは救われたというのです。ロトの立派な信仰や、素晴らしい良い行いで救われたのではなく、アブラハムのとりなしの祈りによって、神様の恵みと憐れみがロトに及び、救われたということです。

私たちは、お互い、誰かのとりなしの祈りによって救われた者です。知っている人もそうですが、名前もわからない、顔も分からない方からも、私たちは祈り続けられているのです。「この地域は、この教会は、そして、私は誰かに今日も祈られている。だから、大丈夫」と、励まされ、あきらめずに進むことが今日も、これからも出来ます。

神様が、祈られた方々を「覚えて」おられ、その祝福が及んでくる。誰かを思い祈るとき、短い祈りだったかもしれませんし、一瞬だったかもしれません。しかし、その祈りも神様の前に覚えられているのです。心が震え、そして、感謝の思いです。

この地域が、どのような状況であろうと、救いの業が今年起こるのだと、希望を持って歩めるのは、様々な方のとりなしの祈りがあり、そしてイエス様のとりなしの祈りがあるからです。

私たち家族も、教会も、様々な教会、地域、未だ救われていない人のために祈り続けていきます。

CONTENTS

巻頭メッセージ
私たちの祈りは覚えられている　中山 孝弘 師
集会レポート
JPF カンファレンス 2018
第12回 東北 ケズィック・コンベンション
BOOK あらかると

3
2018 Mar.

Conference report 集会レポート

毎年行われているJPFカンファレンス（以前は教役者大会）も、今年で53回目となりました。日本全国あらゆる所からペンテコステ信仰をもつ教会のリーダー達が集まり、セミナー、礼拝、交わりを通して、聖霊の力を受けて世界宣教へ出て行くという集まりです。私自身は今回で 3 回目の参加になりますが、まず参加させて頂けたことと、毎回多くの気づきと励ましを受けていることに感謝します。

今年は「教会を建て上げ、全世界に送り出す」というテーマで開かれました。メイン講師はリック・シーワード師（VFC 創設者／シンガポール）。他にも、日本を代表する豪華な講師陣による様々なセミナーや分科会がもたれました。そのなかで、ある先生が仰っていたことが私の中にとても強く残りました。それは「祈りに導かれることはすべて良し」ということです。たとえ何千人という教会を牧会し、世界に多くの教会を送り出しているような先生方でも、さまざまな困難や失敗を経験されています。それは、訴訟問題や、教会全体を巻き込むような問題、様々なバッシング等、私が抱えているものとは比べものにならないものです。しかし、そのような中から、しるしや不思議、そして教会の成長が起こっていったことも同時に聞きました。そこには神様と真剣に向き合い、心を注いで捧げられた祈りと神様の導きがありました。このことから私自身が教えられたのは、神様は、私たちが何かうまくやることを望まれるのではなくて、神様がなさりたい事を、私たちを通してなされるということでした。そのためには、まず私たち自身が神様の御前に立つということがどれほど大切かを再確認する時となりました。このことは、今まで何度も聞かされていることではありますが、ついつい、どうしたらうまくいくかと試行錯誤してしまう弱さが、私たちにはあるのではないでしょうか。神様はそんな私たちを時には強烈な方法をもって「祈りに追い込まれる」のです。

リック・シーワード師

また宣教においても同じようなことが言えるのではないでしょうか。メイン講師のリック師がこのようなことを仰っていました。「イエス・キリストは『全世界に出て行き、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい』と言われたが、最初のクリスチャンたちは、中々出て行かなかった。だから神様は、クリスチャンへの迫害をお許しになった。結果クリスチャンは散らされて行き、行く先々で福音が宣べ伝えられた」と。神様には絶対的なご計画があります。たとえ人の目には困難に見えても、神様のご計画は順調に進められているのです。

今回のJPFカンファレンスで受けた励ましは、今の私にとって、あまりにも必要なものでした。生きて働いておられるお方、時にかなったことをなされるお方の素晴らしさをほめたたえます。ハレルヤ!

Conference report 集会レポート 第26期生 掛端 舞子

第12回 東北ケズィック・コンベンション【青年大会】

会場の仙台青葉荘教会

ロジャー・ウィルモア師

ワーシップチーム

特別賛美チーム

2月12日（月）、日本キリスト教団仙台青葉荘教会で開催された「東北ケズィック・ユースコンベンション」に参列させて頂きました。メッセンジャーはロジャー・ウィルモア師（米国）。テモテへの手紙第二 2章1節～10節から実を結ぶ忠実な働き人として、何が必要か、わかり易く語って下さいました。

パウロは、テモテに対して「わが子よ。キリスト・イエスにある恵みにあって強くなりなさい」（1節）と、実を結ぶ忠実な働き人は、自分の力や能力ではなく、イエス・キリストによって強くされ、何より、神の恵みが必要であると語っています。パウロは、若いテモテが、この先きっと様々な困難や大きな問題に直面するだろうと知っていたので、1節～6節でテモテを励ましています。

ロジャー師は「今の時代は、若者がキリスト者として生きて行くのが難しい時代だと言える。何故なら、この世のシステムが神に反するからである」と語られました。絶対的ではなく、相対的な時代。更に、信仰者から見てこの世の中は、聖書思考、神を中心とした考え方、神視点の思考が薄い一方、この世的思考、人間中心の考え方、人間的視点が濃く、私たちクリスチャンの多くも、知らず知らずのうちに、人間中心の思考、視点、感覚や概念に染まりやすい弱さを持っていると覚えさせられました。そして、困難や逆境に直面した時、どのように忠実にキリスト者として歩めばよいか、三つの例えを用いてお話しされました。

一つ目は、キリストの兵士として、忍耐が必要だと。二つ目は、競技をするアスリートが競技ルールを守り、賞を得るように、みことばに従う従順さが必要。三つ目は、実を実らせる農夫のように、福音の種を蒔き、農夫が毎日畑を耕すのように、勤勉に働く事が大切。

なかでも特に、2つ目のたとえを取り上げ、アスリートが金メダルを獲得する為の以下の7つのポイントを活用し、話してくださいました。

①**諦めないでゴールに向かう姿勢。**信仰生活では、躓いても、また立ち上がり進む。
②**学ぶ姿勢。**信仰生活では、神のみことばから学び、そして、生活に適用する。
③**限りない可能性を信じる。**信仰生活では、神には不可能がないと信じる。
④**練習のため、大きな犠牲を払っている。**信仰生活では、神との交わりの時間を優先する為に自制、決意、努力が必要。
⑤**幅広いサポート体制が必要。**一人ではできない、トレーナーや、ファンの支えが必要。信仰生活では、教会である。一人ではない。互いに励まし、支え助け合う。
⑥**次の競技に備えレベルを上げる。**信仰生活では、先を見る。（私は、神の視点で、霊の目で見る事と受け取りました。）
⑦**潜在能力を持っている。**信仰生活では、証をし、賛美を捧げることで喜びが湧く。（祈りとみことばも、と受け取りました。）

パウロは、賞を受けられる走り方の原則を、コリント人への手紙 9章24節～27節に記しています。自制、走る方向、自分の身体を打ちたたいてでも従わせる、集中力。そして何よりも、神の恵みのうちにあって、聖霊の力によってです。

みことばを黙想し、神の臨在の中で安息し、イエス・キリストによって強くされたいと思いました。そして、パウロのように、若い世代の方々を励ます者へと、更に創り変えられたいと思いました。

BOOKあらかると

永井信義

レント（受難節）のシーズンに読んでおきたい一冊が、J·I·パッカー著『十字架は何を実現したのか』（副題は「懲罰的代理の論理」、いのちのことば社）です。

もともとは論文なので少々難解なところもありますが、主イエスの十字架がどのようなことを成し遂げたのを説明しています。特に、懲罰的代理としての死、「そして、キリストの死はそのことのゆえに人類に救いをもたらしたという信仰」について記されています。